

平成25年10月28日

# 「社会福祉法人に期待される 公益的な取組み」 (社会福祉法人 青山里会)

報告 常務理事 西元幸雄

医療ゾーン  
(病院)

小山田  
福祉ゾーン



○私たちの事業の原点は『医』と『福祉』のコンビネーションです  
◎地域福祉事業の推進が自法人経営の最重要ポリシーです……

# 社会福祉法人 青山里会

職員数 978名

正職員578名 パート400名(41%)

- ・ 特別養護老人ホーム 3施設
- ・ 地域密着型 サテライト特養 (4施設〔各70床〕)
- ・ 老人保健施設 2施設
- ・ グループホーム 3施設 (6ユニット)
- ・ 軽費老人ホーム 4施設 (ケアハウス2・A型1・B型1)
- ・ 身体障害者支援施設 1施設
  
- ・ 訪問介護・看護事業
- ・ 通所介護 7箇所
- ・ 地域包括介護支援センター 1箇所
- ・ 在宅介護支援センター (サテライト7箇所・単独3カ所)
- ・ 居宅介護支援センター 6箇所
  
- ・ 四日市福祉専門学校 1施設 (介護福祉士養成)
  
- ・ 地域交流ホーム 1か所
- ・ 孤立化防止拠点 2か所
- ・ コミュニティーレストラン 4か所 (内一つは軽費老人内)
- ・ 福祉センター美術館 他 2013年現在



# ◎地域福祉活動の中核拠点設置

## 小山田温泉地域交流ホーム



福祉を理解していただく活動から、地域と共に協働する活動へ、さらに地域の声を聞き、共に地域の課題を解決・支援する活動へ

昭和61年、地域と小山田の福祉施設群を結ぶ窓口・交流する場として開設。

11月の「第1回小山田温泉まつり」を皮切りに「夏祭り、盆踊り大会」等々数々の地域イベントを開催。

**会員制の健康増進クラブ、小山田ヘルシークラブ(OHC)を設置**し温泉の利用法や健康相談を開始した。平成3年11月の温泉まつりに合わせて、広く地域住民にノーマリゼーション理念をひろめるべく「**ノーマリゼーション共和国**」を建国。

「ぴあ小山田ホール」増築に伴い、地域における医療・保健・福祉・の総合相談窓口である「在宅介護支援センター」を全国に先駆けて開設し、名実共に地域福祉活動の中核拠点として活動を開始。

現在は「四日市市南地域包括支援センター」を置く。

# ◎地域勉強会への取り組み

当初は「地域の方々と膝を突き合わせていろいろな話がしたい」「地域の人々の考えを知りたい」というような思いで平成2年5月の第一回小山田学校をスタートした。当時のテーマは「**安心して終える街づくり・健康長寿のまちづくり**」で、地域の一般住民を対象として地域のひとびとの生活や文化・歴史～保健・福祉・医療等に至るあらゆる事柄について住民・法人職員・学識経験者や地域の居酒屋の亭主等多彩な参加者で実施。話題は毎回テーマを参加者が決めて学習会を毎月（または隔月）開催している。

最近では、介護保険サービスや認知症、末期がん、高齢者世帯などの話題も多い

## 地域学習会の基本的な考え方と効果

- ◆地域の人々と法人のラポール構築。人々の暮らしや地域性・地域資源等を「知る」「学ぶ」作業
- ◆地域住民が福祉について共に学び、共に考え、自由に意見が言い合える場であること（人々の生活ニーズに気づく機会）（生活課題の共通認識醸成）
- ◆地域で互いに支え合う街づくりの実現

	開設年月 開催頻度	主 催	開催場所	1回平均 参加人数	述べ回数
①小山田学校	平成 2年 6月 毎月第4火曜日	在宅介護 支援センター	小山田温泉 地域交流ホーム	20	251
②常 磐 塾	平成 7年 9月 隔月第3木曜日	〃	在宅介護支援 センター	30	109
③四郷地区 福祉教室	平成10年 5月 隔月第4週	福祉教室 運営委員会	地区市民 センター	100	93
④川島地区 福祉教室	平成23年 3月 年4回	〃	地区市民 センター	60	6
⑤かんざき学校	平成22年12月 隔月第2木曜日	在宅介護 支援センター	地区市民 センター	20	17
⑥亀山学校	平成11年 7月 毎月第3木曜日	在宅介護 支援センター	在宅介護支援 センター	80	143
⑦小杉ふれあい 学校	平成25年 4月 隔月第3水曜日	在宅介護 支援センター	在宅介護支援 センター	20	3
⑧ぬくみ学校	平成24年 8月	ぬくみ学校 運営委員会	いきいき安心 生活館ぬくみ	35	7

# ◎健康まもり隊の取り組み

## 健康とは？

WHO(世界保健機関)における健康の定義

『健康とは、完全に、身体、精神、及び社会的によい(安寧な)状態であることを意味し、単に病気でないとか、虚弱でないということではない。』

やりたいこと、やってみたいこと、誇れること、向上したいこと等、思いの実現

いつまでも元気に生活を送りたい

生活の意欲づくり  
実現に向けた  
目標づくり

自分のできる  
趣味活動、日常生活活動の  
再発見

健康

楽しく、生き生きと毎日の生活が送れて、いつまでも生活に希望と意欲を持って生きたい、ということ。→つまり、それが健康

# 健康まもりたい(隊)の取り組み

実施日:毎週木曜日

時間:受付13:00

開始:13:30~

健康チェック・日常生活支援等

(全て選択 メニューの例)

- ・健康チェック、栄養指導
- ・ストレッチ、体力作り
- ・カラオケ(呼吸法・発声法)
- ・ウォーキング

①コース:小山田~才山工芸村

②コース:小山田~小山田美術館

健康の維持・向上  
を目指してチームケアで

作業療法士

ソーシャルワーカー  
ケアマネージャー  
等々

音楽セラピスト

保健師・看護師

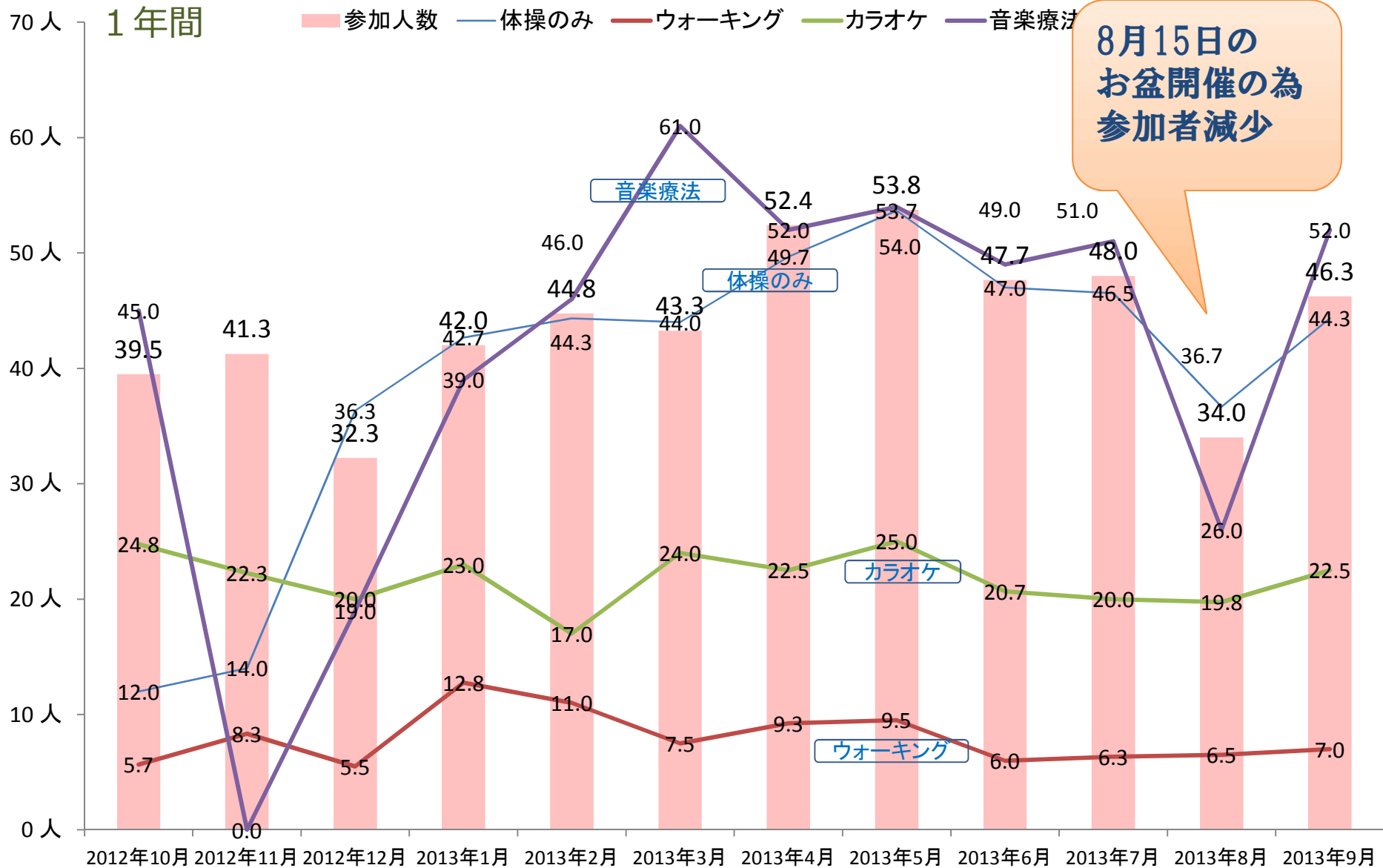
管理栄養士

プロ歌手

地域住民

介護福祉士

# 一年間の参加者数の平均推移





# ◎旅助くん企画

80歳にして初のクルージング!!



H22.8.19  
マリーナ河芸にて



- 9:15 地交前出発
- 10:00 マリーナ着
- 10:30 マリンプレー
- ①クルージング
- ②すいか割り
- ③海で遊ぶ
- 11:50 ランチタイム
- 12:10 ステージショー
- 14:00 マリーナ出発
- 14:20 白子漁港買物
- 15:00 出発
- 15:50 地交着



# 孤立化防止拠点構築への取り組み

- ◆ 研究目的(平成20年度老健事業 補助研究事業「孤立化防止に向けて」)
  - ひとり暮らし高齢者及び高齢者夫婦のみ世帯等の日常生活における具体的な生活ニーズの実態把握
  - 実態把握から、孤立化することの背景・リスク要因を探る。
  - 近い将来の展望として、孤立化防止拠点の構築を想定し、そこに必要な機能を考察する。

## 調査(アンケートによる量的調査)

- 対象:ひとり暮らし世帯・高齢者夫婦のみ世帯
- 調査期間:H20.12. 1~H21.1.15
- 調査方法:当該地区民生委員による配布・留め置き・回収
- 収状況:配布数 2,000枚 / 回収数 1,798枚(回収率89.9%)
- 主な調査項目:基本属性、日常生活における外出の機会の有無、幸福感や不安感、楽しみ、支援の授受の関係 …など

私達の現段階での  
整理での  
【孤立】とは、

- ◎支援が必要でありながら、必要な支援が得られない、  
或いは、資源がない等、無支援状態
- ◎つながり(家族・親族・地域等)がない状態
- ◎家族・親族・地域から無視されている状態
- ◎放任されている状態
- ◎排除! ?されている状態(エクスクルージョン)



# アンケート調査結果の抜粋

(ひとり暮らし n=517)

- 経済的不安(大変苦しい・やや苦しい) ⇒ 約半数
- いつも親しく付き合っている人がまったくいない  
男性...16.2% 女性...5.0%
- 近所の人のお世話になっていない  
男性...75.7% 女性...61.9%
- いま幸せと思う  
男性...65.3% 女性...85.4%
- 緊急時に駆けつけてくれる人がいない  
男性...21.2% 女性...7.6%
- 一週間以上外出しないことがある  
笹川...12.5% 高花平...15.9% 四郷...16.7%

大半は幸せ感があり、今のところ支援も必要としていない

⇒大きな問題なし

しかし、ひとり暮らしの男性に限ると幸せ感や、周囲とのつながりが薄れている ⇒女性よりも孤立化に進む可能性が高い

# 孤立というキーワードに基づいて独居高齢者の事例研究(再アセスメント)を行なった結果、新たに明らかとなった日常生活課題(抜粋)

- 転倒リスクが高い
- ふらつき、下肢筋力の低下など運動機能不全
- 疾病への不安(後遺症・再発)
- 認知症の受診をしない、服薬管理が不完全
- 医療的サポートが必要であっても繋がっていない。
- 外出していない、外出支援がない……通院が出来ない
- 買い物、調理ができない、家事が充分でない
- 栄養管理ができていない
- 衛生管理ができていない
- デイサービスやショートステイ利用時以外のサポートが不足
- 365日3食を確保できない
- 緊急時のコミュニケーション手段がない
- 住み替えたいが適当な住み替え先がない、住居として不適當
- 布団の中で過ごす
- 近隣との関係が希薄、つながりがない

等々

## (孤立の分類)

- ◎社会的孤立
- ◎医療的無支援  
(疾病治療・認知症対応・リハビリテーション・栄養管理等)
- ◎介護的無支援
- ◎食の砂漠化無支援
- ◎生活環境整備無支援
- ◎買い物等外出無支援
- ◎生活ニーズ無把握
- ◎低所得者等無支援  
など

※ 社会福祉法人 青山里会 孤立化防止に関する研究事業・事例研究より  
(平成20年度老健事業推進補助事業(未来志向プロジェクト事業))



# 見えてきた孤立化防止に必要な拠点機能

## 1. 総合相談機能の確保 (在宅介護支援センターを拠点として)

- ◆ 地域の高齢者の実態把握 ⇒ 個別ニーズの把握から地域ニーズへ  
地域に必要な社会資源の開発 政策提言=ソーシャルアクション
- ◆ 介護・介護予防支援の窓口として ◆ 医療、介護における専門機関との連携
- ◆ 自治会、民生委員会等の地域諸団体との連携、協働  
→ 自助・互助のシステム化・ネットワーキングに向けた専門職の関わりが必要

## 2. 地域住民が集える場所・居場所として

- ◆ 仲間づくり・交流の場
- ◆ ふれあいサロン
- ◆ 健康づくりの場

地域住民等と連携・協働する事 or 地域住民主導となる事が継続性の観点からも重要

## 3 食の確保について

- ◆ コミュニティレストラン
- ◆ ミールズオンホイールズ

→ 買い物、調理困難な高齢者世帯等への配食サービス ※ 365日3食の確保

- ◆ 管理栄養士等による栄養相談、栄養管理、栄養指導、治療食への対応
- ◆ 低所得者への対応

# 孤立化防止拠点構築への取り組み

## 1. 行政への働きかけ

市の担当課に「地域支え合い体制づくり事業」の交付金の利用について相談 ⇒ 当初は予算化の問題や手続きの煩雑さ等のため事業の推進に消極的であったが、交渉を繰り返し、ようやく申請できることとなる。

## 2. 地域住民への働きかけ

地域の自治会長、民生委員、老人会、社協等の代表者に対し、説明会を開催する。その後、「運営委員会」を立ち上げ、隔月で会議を開催し、この拠点をどのように活用していくのかだけでなく、地域での困りごとや地域が考えていること等も教えてもらう。

当初は施設の活用や運営方法についての議論が中心であったが、回を重ねるごとに地域で抱える問題や不足しているサービス資源等も話題に上がり、会議の雰囲気も変化してきている。

⇒ 地域の方々と膝を突き合わせて話すところからスタート

「地域を知る」、「地域に知ってもらう」

ネットワーキング  
プロセス

# (2012.4) 二つの古い団地に 孤立化防止拠点を設置

## 四郷地区・三重地区の概要

	地区人口	高齢化率
四郷	24,378	23.7%

### 地域別人口

高花平	2,485	35.4%
-----	-------	-------

四日市市の人口  
312,856人  
高齢化率 22.6%

	地区人口	高齢化率
三重	22,709	23.18%

### 地域別人口

三重西	4,894	30.5%
-----	-------	-------

### 高花平地域

昭和39年に三重県下初の集合住宅として造成。市営住宅454戸があり、一人暮らし世帯、高齢者のみ世帯で地域内の世帯数の約30%を占め、地区内では高齢化が最も進んでいる地域である。

当法人の運営する在宅介護サービスセンターの開設から15年間、地域住民と関係づくりを行ってきており、法人と住民の信頼関係が構築されている。

いきいき安心生活館  
えがお



### 三重西地域

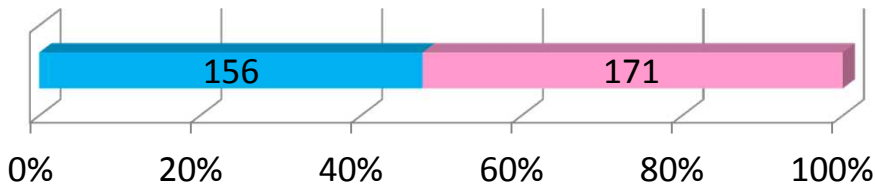
昭和46年に林野を造成してできた、市内で3番目に古い団地が三重西地域の大部分を占めている。また、市営住宅（高齢者・障害者専用含む）もあり、地域課題が山積している。

法人としては今回の事業が初の地域展開であり、住民との関係性は希薄である。

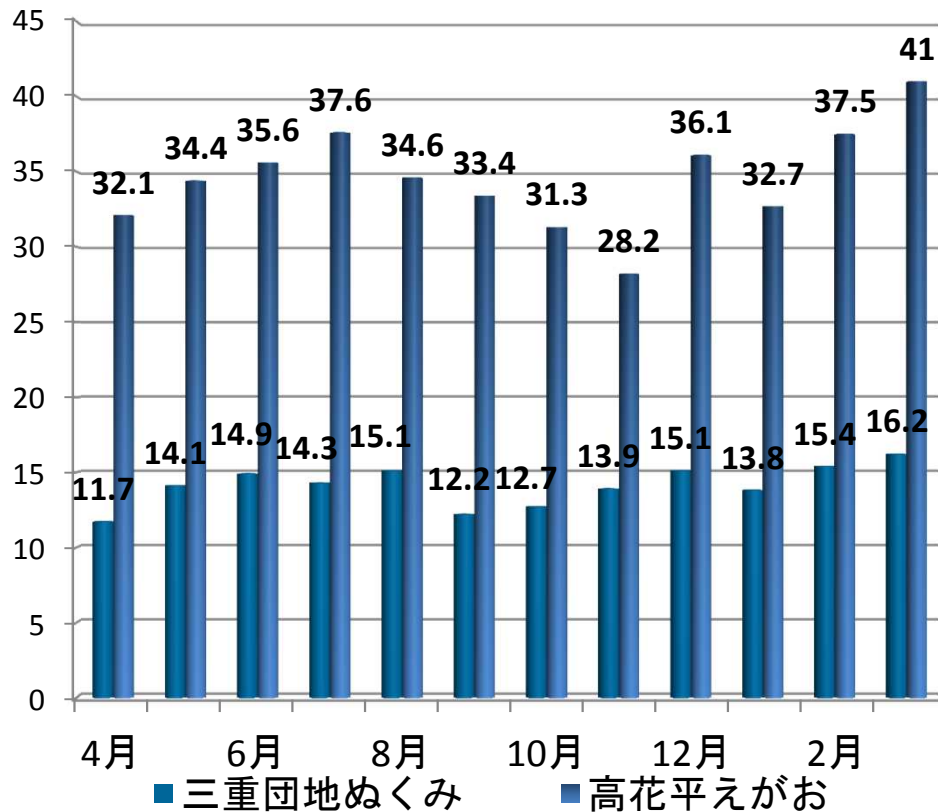
いきいき安心生活館  
ぬくみ

# ①食の確保 & (居場所)

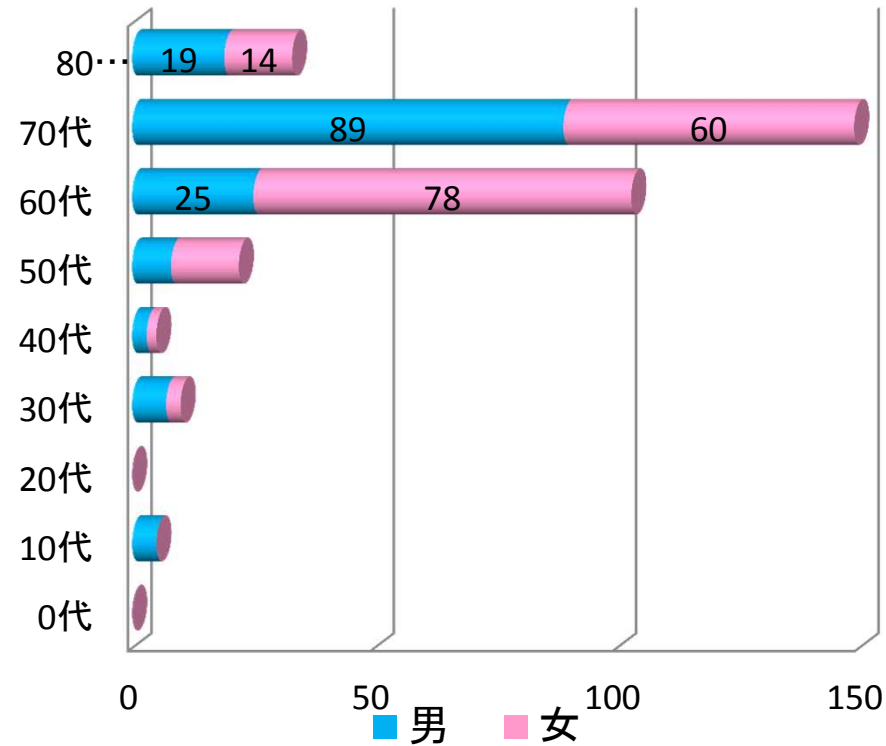
性別



1日平均



年代別



## コミュニティレストラン

安価で食事や喫茶を楽しむことができる。



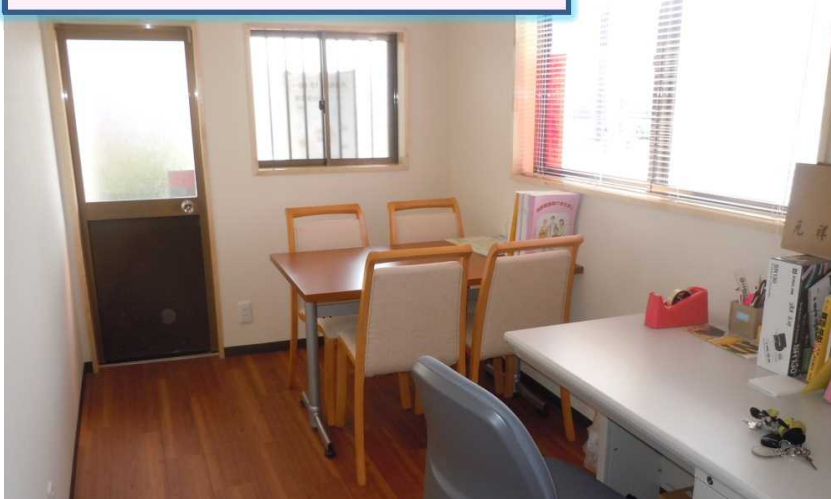
## ②総合相談(在宅介護支援センター)

### 在宅介護支援センターの機能

老人介護支援センター (通称 在宅介護支援センター)

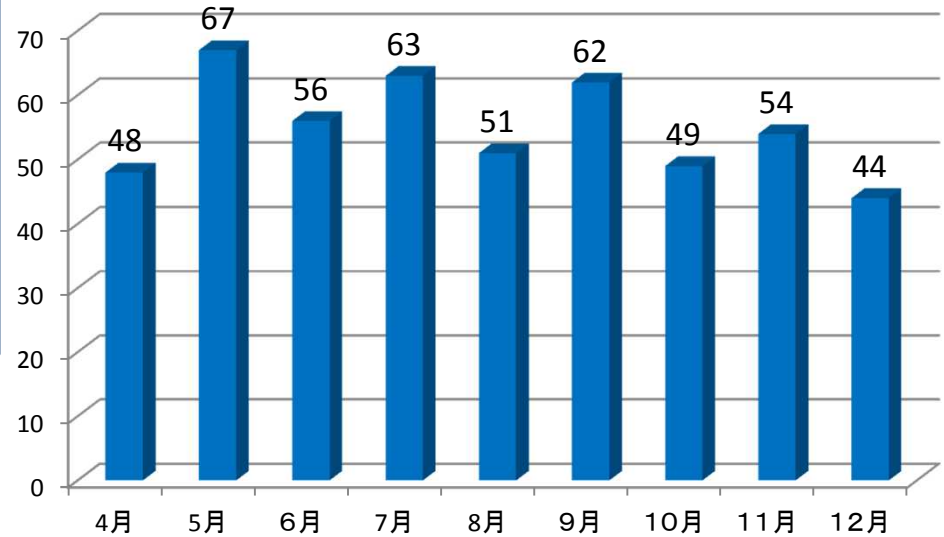
- ① 日常総合相談
- ② 地域の高齢者の実態把握
- ③ 医療・介護など専門機関との連携
- ④ 地域との連携・ネットワーキング

### まちかどふくし相談室

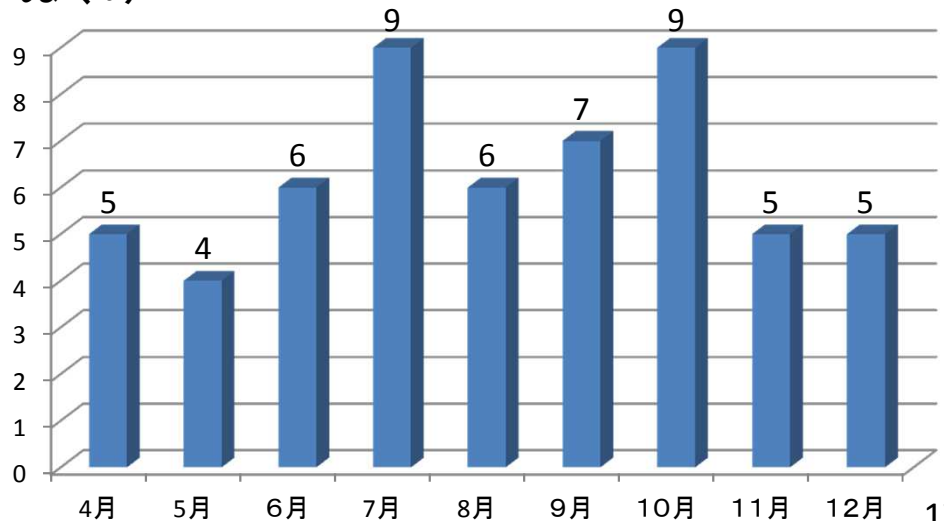


身近な総合相談窓口として、法人独自で運営。

えがお 相談件数



ぬくみ



### ③交流の場&(居場所)

食事の提供を中心とした交流の場だけでなく、地域住民と一緒に「住み慣れた町で安心して暮らせるまちづくり」について考えるという目的で、地域の全住民を対象とした保健・福祉・医療等に関する学習会を隔月で開催している。

この学習会は、地域関係者と協働し開催することで、住民にとってより身近な学習会となっており、毎回50名近くの参加がある。



#### 地域交流スペース

地域ケアネットワーク会議や地域諸団体の会合、カラオケサークル・パソコン教室等で活用



# ライフサポート三重西 事業の概要

## 事業のシステム

### 事業の趣旨

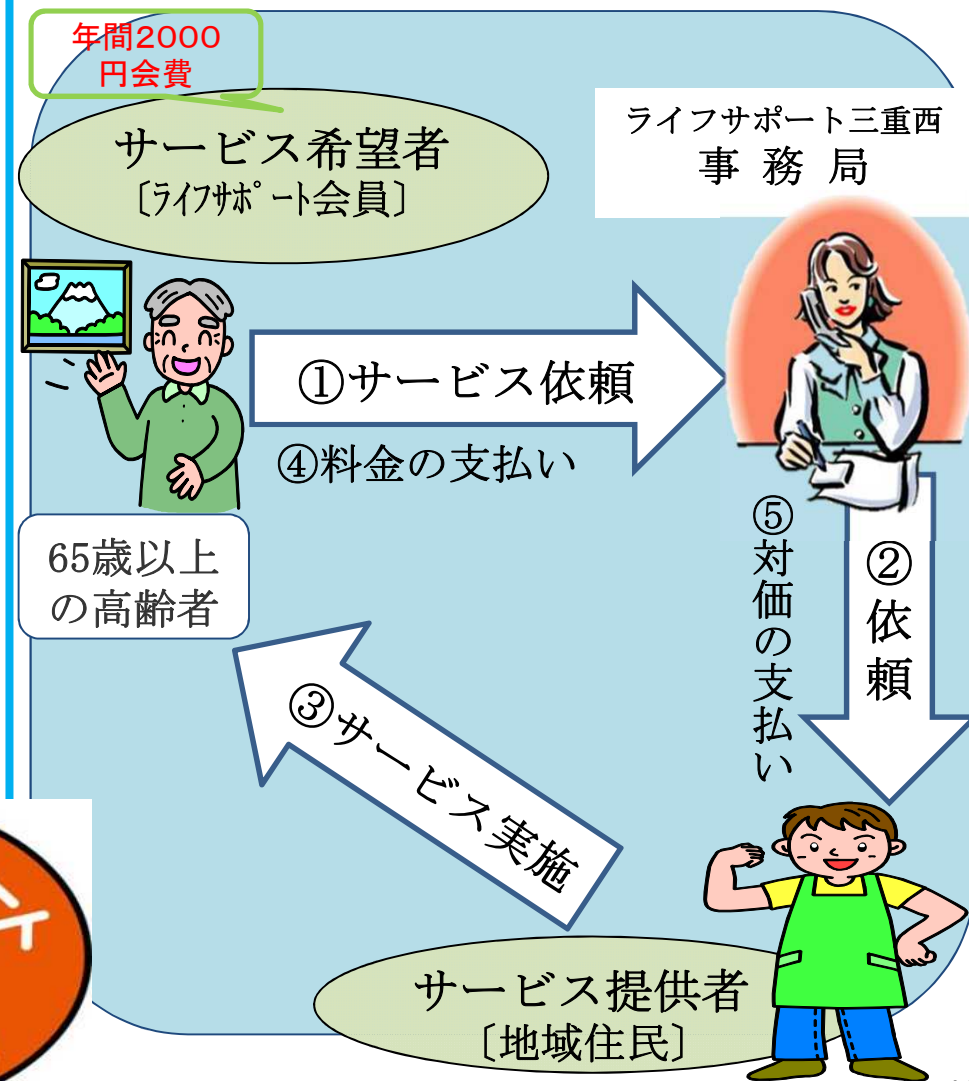
#### 1) 自らの生活は自らが守る

出来るだけ長く在宅生活を続けるために、高齢者世帯の生活を住民自ら守る覚悟を持つ

#### 2) 地域完結型

“住民の、住民のための、住民による”日常生活支援事業の実施

愛称：すけっとくん





# 生活支援サービス **ゴミだし**

買い物同行



## サービス内容

- ・ゴミだし
  - ・自宅の清掃
  - ・食事の配達
  - ・屋外作業
  - ・買い物支援
  - ・受診の付添い
  - ・書類の代筆
- など



家の修繕



小物箱の  
組み立て



配食



庭の掃除





# 社会福祉法人青山里会の公益的取り組み実施項目例

## 《地域のつながり、地域とのつながり》

- ①地域での勉強会（平成2年から月に一回実施 ⇒ 現在8か所）
- ②地域行事等の支援（出前まつり・バンド・資材貸出し・・・etc）
- ③集会場(地域利用拠点)の提供
- ④ボランティアセンター など

## 《生活支援関連事業》

- ①コミュニティレストラン(小山田・高花平・三重団地)
- ②出前音楽・アニマルセラピー(アクティビティ)
- ③生活相談(単独型在宅介護支援センターの設置 3か所)
- ④地域交流ホーム・会員送迎サービス
- ⑤健康まもり隊
- ⑥特別養護老人ホーム等レジデンシャルの分館の設置

## 《他業種連携関連事業》

- ①地域ケア研究会議→ 地域包括ケア実践研究会
- ②三重県認知症ケア専門士会事務局
- ③レジデンシャルケア研究会議

## 《レジデンシャルのサービス機能向上》

- ①軽費老人ホームA型・B型

# 今後の課題

1. 拠点機能としては、先の研究からみえてきた「総合相談」「交流の場(居場所)」「コミュニティレストラン」を中心に展開していく中で、地域住民と協働しながら地域性を生かした新たな日常生活支援サービスメニューを開発し、行政に提言していく必要がある。
2. 拠点整備・運営に係る財源確保。地域支援事業の推進方策についての検討が必要である
3. 在宅介護支援センターの機能を生かし、総合相談・実態把握から個別ニーズの把握・集積を行い、地域ニーズに合った(地域に編成された)サービスメニューの開発を地域・行政・多団体等と連携・協働しながら行う(小学校区または小地域単位に老人福祉法による老人介護支援センターを社会福祉法人の地域福祉事業として設置運営することを提案したい)
4. 住民が自ら作り上げるライフサポートシステム等の推進にたいし、社会福祉法人の持つ人(専門性)・モノ・金・情報等を効率的に駆使し地域への貢献を行っていく事は福祉法人の使命であり理念の一つと考える。